

# 「日常の備えや的確な判断を主体的に学び活動する生徒の育成」

平成 26 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 奈半利町立奈半利中学校

## I 学校における背景、問題意識

最大級の南海トラフ地震では、奈半利町では、震度 7、最大津波高は 16m と想定されている。本校は海拔 6.1m、河口から 600m で、西側を隣接して奈半利川が流れている。校舎は鉄筋コンクリート 3 階建てであり、津波は校舎 2 階まで達すると想定されている。

平成 25 年度に学校防災アドバイザー派遣事業により、高知大学総合研究センター防災部門 特任教授 岡村 眞氏を招聘し、避難訓練ならびに防災学習の講話を実施した。岡村氏招聘の際は、町内放送にて保護者や地域住民に呼びかけをしたものの参加者はおらず、町民の防災意識の高まりに課題があるという現状が浮き彫りとなった。学校としては、防災教育によって、子どもたちに「自分の命を自分で守る力」を身に付けさせることはもちろん、保護者や地域の防災意識の向上を目指して、子どもを発信源とした防災の情報発信をさらに積極的に行っていくことが必要となっている。

また、地域には自主防災組織があるものの、各地区で取組に差がみられる。



<生徒の実態>

平成 26 年 5 月実施

「防災意識アンケート」より分析

「あなたは地震などで避難した後に、家族との連絡先を決めていますか？」の質問に対し、「はい」1.5%、「だいたい」5.9%と、家庭で防災に関する話し合いがあまりされていないことが分かった。

また、「あなたは地震に備えて準備をしていますか？」という質問に対しても、「はい」5.9%、「だいたい」16.4%と、家庭での備えの不十分さも明らかとなった。

## II 取組の概要

### 1 奈半利中学校の防災教育目標

- ◆「自ら身を守ることができる」
- ◆「知識を備え、行動することができる」
- ◆「地域の安全に貢献することができる」
- ◆「人間としてのあり方、生き方を考えることができる」

### 2 取組内容

#### 【教職員の取組】

##### (1) 環境整備の充実

- ・学校屋上の屋根裏に防災備品を備蓄
- ・職員室に避難確認用の避難カードを作成

##### (2) 公開授業に向けての模擬授業

- ・1月30日の防災教育研究発表会の公開授業に向けて、各々の学年の指導案をもとに模擬授業を実施し、全教職員で授業を検討

#### 【全校での取組】

##### (1) 様々な場面を想定した避難訓練

<第1回> 5月31日(土) 2校時

- ・学校屋上への避難
- ・保護者も参加

(参観日)



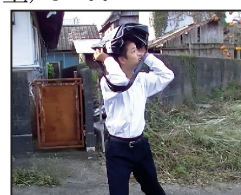
<第2回> 7月15日(火) 2、3校時

- ・保幼小中合同で実施
- ・教室から実施
- ・途中で保育所、幼稚園児を救助しながら避難



<第3回> 10月18日(土) 9:00～

- ・登校中に実施
- ・各自で地震から身を守った後、近くの高台に避難
- ・自主防災組織の協力



<第4回> 12月16日(火) 15:35～

- ・掃除中に実施 (生徒に予告なし)

<第5回> 1月20日(火)16:45～  
・部活動中に実施(生徒に予告なし)

## (2) 実践的防災訓練

- ①起震車による揺れ体験・煙体験
- ②心肺蘇生・救急救命法実践学習
- ③自衛隊の方による救助実践学習
- ④体育大会での防災種目の導入
- ⑤文化活動発表会での取組発表

## (3) 専門家による講演

<第1回>

日時: 7月15日(火)4校時  
内容: 「東日本大震災からの教訓」  
講師: 高知大学総合研究センター  
防災部門 特任教授 岡村 眞 氏

<第2回>

日時: 10月18日(土)10:15～  
内容: 「土砂災害について」  
講師: 高知大学総合研究センター  
防災部門 特任教授 岡村 眞 氏

## (4) 防災に関する研究授業

<第1回> 6月18日(水)6校時  
第3学年「災害後の暮らし、  
あなたにできることは？」

<第2回> 7月8日(水)6校時

第1学年「備えて安心」

<第3回> 10月1日(水)6校時  
第2学年「備えて安心！」

～家庭の安全対策～

## (5) 防災キャラクター作成

夏季休業中の課題として、全校で奈半利中学校オリジナルの防災キャラクター作りに取り組み、防災意識の向上を図った。



【各学年のテーマに沿った取組】

## (1) 1年生「登下校中の防災マップづくり」

### ◇目的

- ・防災マップを作成し、街中の危険な箇所や防災体制を学ぶ。
- ・生徒の自主性をもとにマップを作ることで、防災知識を学ぶ意欲を高める。
- ・発表会で学習したことを発表し、家庭、地域の防災に貢献する。

### ◇取組の流れ

- ①防災マップについての説明、  
グループ分け
- ②町歩き
- ③防災マップづくり
- ④防災マップ発表資料づくり
- ⑤文化活動発表会に向けてリハーサル
- ⑥文化活動発表会での発表



### ◇成果

- ・マップを作成することにより危険箇所や避難場所の所在を確認することができたことは大変意義があった。
- ・1グループを2名または3名編制にしたが、それぞれ分担したり協力したりすることができて良かった。

### ◇課題

- ・グループによってまとめの時間や作業進行に差が出てきて、調整することがあった。
- ・学校単独での実施だったが、地域の方に協力してもらった方がもっといろいろ学習できたのではないかと思った。
- ・危険な箇所は、ただ「危険である」という認識しかないと感じた。どういふところが危険なのか、どうなると危険なのかを具体的に考えさせることができなかった。

## (2) 2年生「防災学習出前授業」



～年長さん・小学校1年生に  
地震の怖さ・避難の仕方を伝えよう！～

### ◇目的

- ・今まで学習してきた地震や津波に関する知識を園児や児童に伝えることで、園小中の防災意識を高める。
- ・出前授業を通して、防災の知識や意識をより深めるとともに、班内で助け合う力や表現力を高める。

### ◇取組の流れ

- ①目的の説明・内容や方法の決定・計画
- ②準備物作成
- ③文化活動発表会での取組発表
- ④学級での発表練習
- ⑤発表

12月11日(木) 10:35~11:20 → 帰校後 振り返り	
始めのあいさつ → 各班の発表 → 終わりのあいさつ	
奈半利幼稚園(年長 19名) 集会室にて	奈半利小学校(1年生 17名) 1年教室にて
1班 <腕人形劇> 腕人形を使って、地震の怖さを伝えたり、災害時の「おはしも」を覚えてもらう劇を行う。 	6班 <〇×クイズ> 地震に関するクイズを出題し、〇と×のグループに分かれる。楽しみながら正しい知識を身につける。 

### ◇成果

- ・目的や内容を生徒たちに提案すると、教員の想像以上に生徒たちが関心を持ち、意欲的に取り組み、多様な発想が生まれた。
- ・生徒たちにとって一番難しかったのは「何をどのように伝えるか」だった。自分たちが防災学習で学んできたことを幼稚園児や小学校1年生にどう言えばいいのか、どうやったら伝わるのかを考えなければならなかった。そのためにインターネットや資料で正しい情報を得たり、確かめたりすることで、生徒たちの防災の知識もさらに深まった。
- ・「学んだことを分かりやすく伝える」ことで、幼稚園児や小学生が楽しく防災のことを学ぶことができた。また、生徒たちが「年長さんや小学生が防災について少しでも分かってくれたらよいと思う」という思いを持ったことは、

「広げる」という観点からも大きな成果である。

### ◇課題

- ・声の大きさや表現力など相手に分かるように伝えることがまだまだ不十分であることが再認識された。
- ・今まで学習してきた防災学習をさらに深めていくとともに、「いつ、どんなときでも自分の命を守る」ことが実際にできるようにすること、そして、学んだことを家族や地域につなげ、広げていくことが次の課題である。

- (3) 3年生「奈半利町の防災を学び、自分たちにできることを考えよう。」

### ◇目的

- ・インタビューを通して積極的に地域とつながりを持ち、地域の防災の現状を知る。
- ・地域防災の現状を通して、「自分にできる役割」を考えることができる。
- ・日頃から地域とのつながりを大切にすることや地域の防災訓練に積極的に参加することなど、地域社会の一員として自分にできる行動を積極的に実践しようとする態度を養う。

### ◇取組の流れ

- ①奈半利町の備えについて  
各班に分かれてインタビュー
- ②簡易トイレ作り・防災頭巾作り
- ③文化活動発表会で防災学習の中間発表
- ④地域へ学びを発信する「防災新聞」づくり
- ⑤奈半利町の安心・安全な町づくりのために自分たちができることについて



### ◇成果

- ・生徒たちはインタビュー活動を通して奈半利町の課題が見えてきた。そして人任せでは自分の命や人の命は助からないこと、中学生にできる行動は沢山あること、日常的な人と人とのさりげ

ない関わりの積み重ねが、自分や人を助ける行動につながることに気が付いた。

- ・今年度の12月に実施した第2回防災意識アンケートで「あなたは、地震発生後に周りの人の安全のために何かできることがありますか?」という質問に対しては、「ある」と答えた生徒が5(+2)名、「だいたい」が11(+3)名、「あまり」が6(-6)名、「いいえ」が2(+1)名であり、約25%の生徒が自分たちにできることについて考えることができるようになってきている。

#### ◇課題

- ・12月に実施した第2回防災意識アンケートにおいて「あなたは、奈半利町の安心・安全な町づくりのために、こうしたらよいと思うことがありますか?」という質問に対しては、「はい」が2名、「だいたい」が11(+1)名、「あまり」が9名、「いいえ」が2(+1)名であり、ほぼ変化が見られていない。
- ・自分のことだけではなく、友達や家族地域の方々と積極的にコミュニケーションを図ること、他人のことを思いやり、自らを律する行動ができることの大切さを実感させること。

### Ⅲ 成果と今後の取組

#### 1 取組の成果

- 教職員自身も、以前は地震が来れば「ただ逃げる」「諦める」という意識があったように思えるが、教科・特別活動・道徳・総合的な学習の時間を通して、教職員自身の地震・津波に関する意識が高くなり、生徒の地震・津波への「意識」「備え」の向上がみられた。このことはアンケートでも実証できた。
- 『高知県安全教育プログラム』を基に系統的な防災学習計画を作成することができた。また、全教職員が協力し防災学習の授業づくり(研究授業・公開授業)に取り組むことができた。

- 避難訓練と防災講演会を一緒に実施することで、生徒がより真剣に自然災害について考えることができた。

- 避難訓練は昨年度まで年1回の実施であったが、今年度はショート訓練を含め5回実施することができた。保幼小中合同避難訓練では「自助」「共助」という視点で避難することの大切さを実感することができ、登校中の避難訓練では、地域の自主防災の方々との関わりもできた。

- 非常食体験は、アルファ化米を食べることができない生徒がほとんどであり、好評であった。避難所での運営に主体的に参加しようとする意欲・意識を持たせる機会にすることができた。

#### 2 取組の課題

- まだまだ防災に関する関心・意欲には個人差がみられる。今後自然災害の発生を自分のこととして捉えることができるように映像や体験活動を多く取り入れるなど防災学習の工夫改善を図る。
- 家庭にいる場合や休日など、学校管理下外での防災意識をもっと高めていく必要がある。
- 学校のみでなく、地域・家庭との連携が必要である。地域の防災避難訓練に参加し、避難経路の確認や避難所での生活で中学生として主体的な行動ができるよう働きかけていく必要がある。
- 町内の保幼小中で連携を強め、保幼小中で一貫した防災教育ができるように計画する必要がある。

#### 3 次年度に向けて

- ◎教職員のさらなる防災意識の向上を目指し、校内研修を充実させる。
- ◎避難訓練についてはさらに様々な場面を想定して実施する。
- ◎生徒の防災意識や行動面は向上してきているので、今後は家庭や地域と連携した防災教育を実施していく。